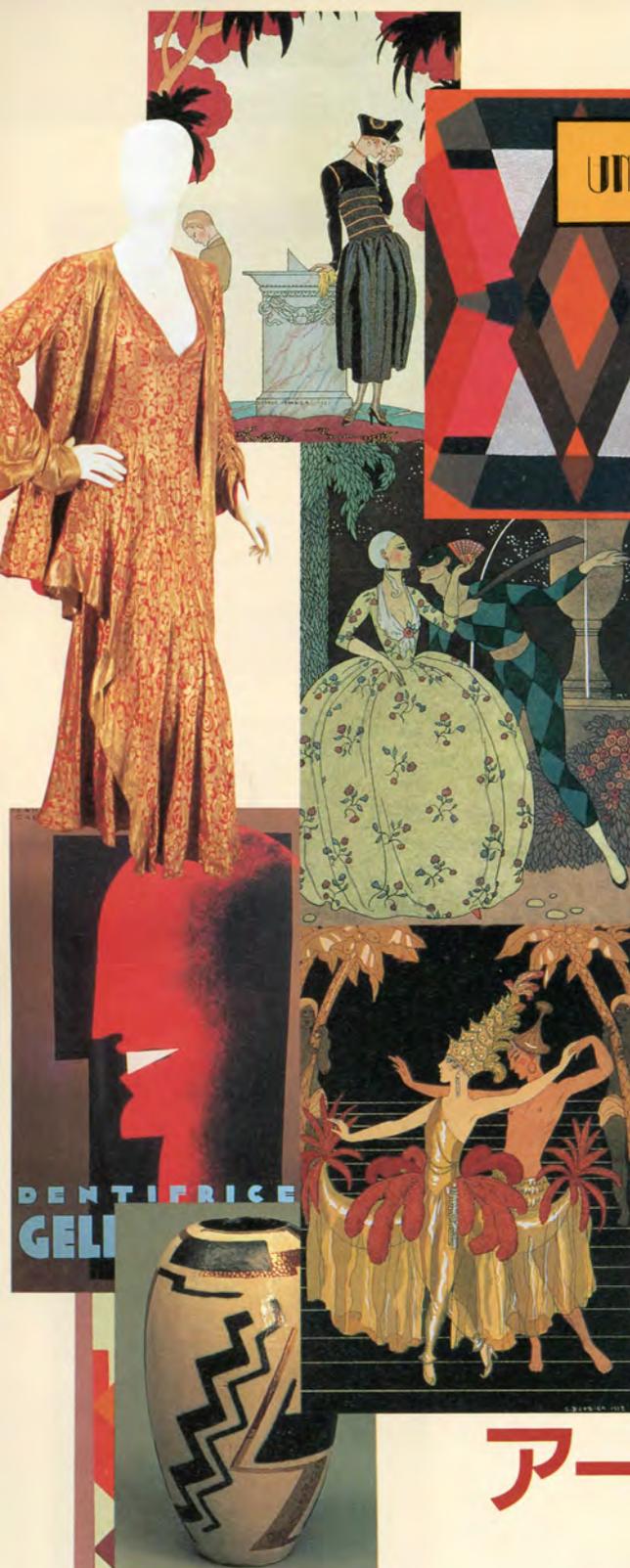


UN ASPECT SUPERBE D'ART DECO  
— Images des modes féminines —



おしゃれが生活を彩った時代

# アール・デコの世界

1994.4.28(Thu)～5.29(Sun)

開館/午前9時～午後5時(展示室入室は4時30分まで) 初日は午前10時開展  
毎週金曜日は午後7時まで開館(展示室入室は午後6時30分まで) 月曜日休館

高松市美術館 高松市組屋町10-4  
TEL.(0878)23-1711

入場料/一般900円・高大生600円・小中生300円(一般前売りおよび団体20名様以上は2割引)

主催/高松市美術館・毎日新聞社・山陽放送  
後援/外務省・文化庁 協力/毎日コミュニケーションズ・文化学園創立70周年記念事業委員会



「形と色」より／オーギュスト＝アンリ・トーマ



ルネ・ラリック／ヴィテス



「モード・エ・マニエル・ドージュルデュイ」vol.3より／  
ジョルジュ・バルビエ

## UN ASPECT SUPPLEMENTAIRE D'ART DECO — Images des modes féminines —

### おしゃれが生活を彩った時代

アール・デコとは1920年代から30年代にかけてパリを中心に欧米諸国に広がった装飾美術様式の総称です。

フランス語で装飾美術を意味するこの言葉は、1925年にパリで開催された現代装飾美術・産業美術国際博覧会（アール・デコ展）の名称に由来するもので、はじめは1925年様式などとよばれていました。

その特徴として、19世紀末に流行したアール・ヌーヴォーが植物などをモチーフとしたゆるやかな曲線を多用したのに対して、アール・デコのデザインは、直線を主体とした機能的で、幾何学的な構成をみせています。

また、工業の発展によって機械文明が浸透し、マス・メディアが発達を遂げるなど、今日の都市生活の原型が誕生したのもこのアール・デコの時代であり、一方で、女性のファッションも生活環境の変化と共に大きく変貌しました。この展覧会では、現在のファッション雑誌の前身とも言うべきファッション・プレート（手彩色版画）やコスチューム、プラスチック・バッグなどのファッション・デザインを中心に、ファッションの黄金時代と呼ばれた当時を回顧すると共に、併せてアール・デコの巨匠たちの工芸品を含めた約400点の作品で、多彩なアール・デコの世界を紹介します。



「形と色」より／オーギュスト＝アンリ・トーマ



書架机／ビエール・シャロー（東京国立近代美術館蔵）

#### ●講演会のお知らせ

#### 「ファッション・プレートからみた アール・デコ」

講師

石山 彰（文化女子大学教授、同図書館長）

5月8日(日) 午後1時30分より  
高松市美術館一階講堂にて  
入場料…無料 定員…先着200名様

#### ●次回展覧会のお知らせ

#### 国立公園79景展

1994年6月10日(金)～6月26日(日)

#### ●第1期常設展のお知らせ

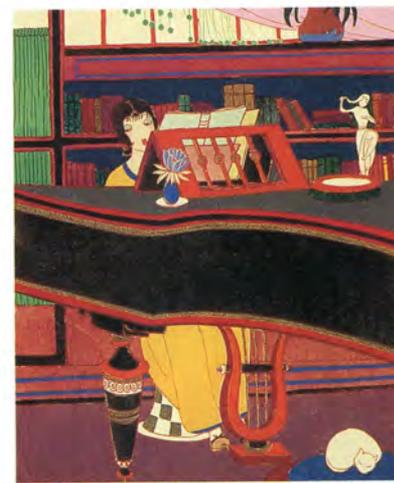
(現代美術)

ポップな日本の版画家たち

(工芸部門)

伝統工芸の作家たち

1994年4月2日(土)～5月22日(日)



「モード・エ・マニエル・ドージュルデュイ」vol.2より／  
シャルル・マルタン